

# 令和6年度 山梨県立韮崎高等学校

## 第2回 学校運営協議会 会議録

開催月日 令和6年10月25日(金)

開催時間 午後2時15分から午後4時30分まで

開催場所 山梨県立韮崎高等学校 視聴覚室

出席委員 本校同窓会副会長 岩下 和彦 定時制 PETA 会長 上野 政巳  
山梨県立大学客員教授 輿水 達司 韮崎市財務政策課課長 長谷川尚樹  
地元企業役員 山田 七穂

(※大石委員、早川委員、佐藤委員、赤岡委員、角田委員は欠席)

出席職員 校長(兼委員) 野崎 哲司 全日制教頭 矢崎 克洋  
定時制教頭 上杉 尚子 事務長 小林 芳昭  
教務主任(兼委員) 川村 譲

(※川村委員は遅刻)

### 会議要旨

○授業参観(全日制:6校時 定時制:午後部2校時)

### 【順路】

定時制1年(体育)⇒2年(地学)⇒3年(論理国語)⇒4年(政治経済)

全日制1年(歴史総合)⇒1年(言語文化)⇒3年(数学Ⅲ)⇒

2年(英語コミュニケーションⅡ)⇒理数科(スカラーⅠ)⇒理数科(スカラーⅡ)

【次第】

1. はじめの言葉
2. 学校長挨拶
  - ・前回会議にて話題となった「バイク通学認可」に関する件について資料に基づき訂正、改めての説明含
- ※会の進行を、議長という形で本会会長岩下様に依頼することを司会より説明
3. 学校概況（全・定）
  - ・資料1～5ページを用いて、全日制教頭・定時制教頭からそれぞれ説明。
4. 学校運営協議会の活動について
  - ・資料16～17ページを用いて、全日制教頭から説明と提案。
5. 質疑応答・意見交換

委員 1ページの、オーストラリアのコロナラ高校との姉妹校提携というかは、それはどんなきっかけで始まったんですか。

校長 平成24年だったと思います。葦崎高校は、イギリスの学校と姉妹提携してしまっていて、それが途絶えてしまっていて、24年の時にアドバイザーを通じまして、姉妹校提携になった、その時は校長が向こうへ行って、提携をしてきたというふうに記憶しています。

委員 教育委員会とか、そういうアドバイザーではなくて。

校長 業者だと思います。隔年でこちらから送る、そして向こうから来るっていうことを繰り返しています。コロナで少し途絶えていたのですが、何とか昨年度の春、この春に行ってきた、何とかお迎えすることができたという状況です。

委員 ありがとうございます。

委員 今、16ページで、「学校運営協議会の活動について」って、で、課題研究でリソースの提案・提供とかのが、それに関連することで、11月6日にSSHのところでもこういう話題が出れば発言しようと思って、少しこの地域の、本当は持ち味を出すような、そういうプログラムに少し変えたらっていうことを、去年も一昨年も言ったりしてるんですが、それで、言いたいことは、葦崎高校のこの地域で今までやっていることに、さらにサイエンスというか、あの、リソースってやつですか、糸魚川静岡構造線っていう大断層が走っているんですね。で、そういうことで土砂災害が非常に多いところなんです。で、そういう断層が走ってるから大村先生の温泉も、断層絡みで温泉があったりするっていうことで、そういうことをもうちょっと、地域の資源として提案ができるかどうかかわからないんだけど、よければそういうことを進めれば、独創性っていうか、他のところにはできない話題が、葦崎高校で、こういうことができればおもしろいのかなと思うことを考えています。それは、これから地球温暖化でとんでもない、想定外の雨が降ったりすると、今の堰堤じゃ間に合わないって、富士川砂防の所長が言ってるんだっ

て、だから、富士川砂防の連中は、そんなことで、例えば葦崎高校のSSHに、なんか協力するなんて言ったら、喜んで協力するっていう話はあるんで、そういうやつの橋渡しみたいなことはできるって、そんなことを思っています。今のやつをただ続けるんじゃ、よくないと思っています。さすがに探究活動に関するリソースのやつは、真剣に考えたほうがいいと思うんで、発言させてもらいました。

全日制教頭 ありがとうございます。地域の防災に高校生が関心を持って、発信していくなんでいう、富士山の噴火に対して、吉田高校が取り組んでいるなんて聞いたことがあるんですが、本校では、今輿水先生から御発言いただいたような内容を、係の者に伝えながらやっていきたいと思います。大変貴重な御意見をありがとうございました。

委員 あのー、強歩大会なんですけれども、今回の完走率みたいな、そういったものは、どのくらいですか。全員がゴールまで行ったのでしょうか。

校長 数字が出ているものは今日持ってないですけど、ほぼほぼ完走です。

委員 今は長坂の駅のところから、どこまで行くんですか。

校長 男子は諏訪湖まで。片倉館のところ。女子の方は青柳の駅まで。女子の方は30キロ弱、男子の方は40キロ強です。

委員 あと、クロナラ高校からの交流関係なんですけれども、向こうから来たりうちから行ったり、何日くらい。

校長 2週間です。

委員 2週間ですか。ホームステイって形でやるんですか。

校長 はい。

委員 その受け入れっていうのは、なんか方法があるのですか。

校長 応募の形で。行くにあたっては、基本的には受け入れを考えてくださって形で、うちの生徒たちには言っています。

委員 これ、下世話な話なんですけど、もしこっちから行くとなると、費用って…

校長 かなり高くなりました。3月の話なので私も覚えてないんですが、ちょっと円安もあって厳しいなっていうのは…。

全日制教頭 40何万だったと思います。

委員 それでも、やっぱり行きたいと言う…

校長 いてくださいました。ある程度、18人以上いないと採算ペイしないんで、できないねって話だったんですが、なんとか…

委員 そこには補助的なものはまったくなくて、すべて実費負担というところですか。

事務長 生徒さんにつきましては、ほぼ負担をいただきます。教員に対しましては、宿泊費だとか交通費だとかは、工面はいたします。

全日制教頭 引率教員2名です。

校長 引率教員分を普通でしたら生徒が負担するところ、頭割りで負担するところを、その分を学校の方で出しています。その分を補助している形になっています。

委員 なかなか大変ですよ、今は。こういったところへ行って…。まあ、けどもせっかく

こういったあれがあるので、長く続けていっていただきたいなあって、思いますんで、頑張ってください。

もう一点いいですか。春先に野球部の存続の件について話をさせていただいて、夏の甲子園が終わって、3年生がもう引退っていう形の中でね、1年生2年生では蕪崎高校の中ではチームが組めないというような状況だったんですけども、今、実際問題上野原と合同チーム、合同練習ってというような形で、春は話をうかがったんですが、それはどういふふうな今…。

校長 結局夏の大会が終わりまして、組めない形になって、秋の大会は上野原と合同チームの形。今足りないのは身延、上野原、甲陵ですか。で、足りないって感じ…

全日教頭 塩山も…

校長 塩山か。え、合同チームを組んで出場したと。

委員 え、4校、5校との合同チーム？

全日教頭 足りないところがそうですね、私の記憶も定かじゃないですが、塩山高校も足りなくて、どっかと合同チームを。うちではなかったんですけども。

委員 まあ、近いところであれば、蕪崎と甲陵で、もし、こう上手く組めてね、チームができるのであれば、近くて連携しやすいのかなって思うんだけどね。

校長 上野原、うち、塩山…だったかな、うち、それから甲陵と組んでたんですけど、直前になって甲陵が出場できないという形で。

委員 一応、その、大会までに来年1年生が入ってきてくれれば、野球部に入ってきてくれればいいんですけども、もしダメだった場合は、そういった合同チームで大会とかに臨むってということですね。わかりました。

委員 今の関係で、あの、サッカー部は人が多いですよ。で、サッカー部で、野球の試合に出ることは可能じゃないかと思うんですが、どうなんですか。

校長 選手登録があって、4月の段階で登録する必要があるんで、重複登録が可能だとは思いますが、それが一つ。で、もう一つは、子どもたちが、サッカーやりたいって意思が入ってきてますから、ちょっとそれを曲げてってというのはできない、それからもう一つは、例えば野球の試合に出てケガをしまして、サッカーの試合に出られないといたら、子どもたち、それから親御さんの方はだいぶしょんぼりすると思いますんで、そういった点でもあまり学校側からそれを督励することは、できないという感じです。

委員 昔の僕のころで、蕪崎高校じゃないんですが、蕪崎高校のサッカーの試合に、日川高校はサッカー部の人足りなかったんですよ。それで、日川というと、ラグビー部が強く、全日本で知る人ぞ知る選手がサッカーの試合に出るんですよ。で、結構、あの、まあまあ頑張ったんだけど、日川高校としては、両方に登録するってということで、それがサッカー部の先生が、ルール上問題がなければ、今までにない新しい運動部の取組として、サッカー部が野球部を兼ねるってというようなことで、別の高校と合同でやらな

いって、新しいスタイルを、蕪崎高校が最初にできないのかなと思って発言したんですが。ルール上できないんだったら論外ですが、昔、そういうのを見ていたら、今みたいになんか、別の発想で、こういうふうにするっていうのも、どうなのかなあって思いました。

委員 私時代には、実はあの、結構運動神経のいい連中が、部活正式に入るの嫌だと言って「第2サッカー部」なんていうのを勝手に作ってね。あの、空いているところでやっていたんですよ。で、試合になると、あの、ラグビーはなにしろメンバーが足りなくて、彼らみんなラグビーの試合に出ていて、場合によって1回ぐらい勝ったりしてね。そんなこともありましたが、まあ、状況にもよるんでしょうね。選手登録ができるかどうか、本人にやる気があるかどうか、だと思えますけれどね。あれですよ、ちょっと今、本当にサッカーのみんなが100人って言うと、男子のほぼ半分、半分以上…

校長 半分以上ですねえ…

委員 だから、そういう形で全部サッカーオンリーっていうとね。まあ、公式戦しか、それは、まあ、部としても他にもいっぱいあるんでしょうけども、ちょっとこう、先生のおっしゃったとおり、もったいない感じはしますね。高校の時の運動部の体験というか…

委員 もっと言うと、どっかの高校と一緒にやると、蕪崎高校の中で、部を跨いででもそういうことができる、出場できれば、それはむしろ、できないのであればできるように蕪崎高校が働きかけることによって、それがいいように発展するってことも悪くないかなって。そうすると愛校心っていうかね、そういう形が試合の中で、気持ちの面が出るんじゃないのかなあって。

委員 よろしいですか。その件では、一応反対というか、違う考え方もあるよねってことで意見を言わしていただきたいんですけど、やっぱりですね。高校の部活動まで来てやろうとしている子どもたちに野球をやってみないかっていうのは、その子にも失礼ですし、相手の、一生懸命野球をやってきたチームに対しても失礼だということもあると思うので、いろんな新しい形を模索するのはいいと思うんですけど、かなりいろいろ問題があると思うんですね。

委員 僕が言ってるのは、ええ、わかりますよ。そういう発言は当然出るんだけど、野球部が人数足りないの、暇だったら、野球部に失礼だけど、それはサッカーが大好きで、それはそれでいいんですよ。サッカー部に野球部に出て来い、なんて、そんなことじゃないってことを言いたかったってことで、本人が第2っていうか、野球部を同じ高校のっていう、その程度のことを言っているわけであって、お前こっちはやれ、なんて、そんなことは本当に問題になりますよ。それは、まさに、そういう意見は当然出ると思って、そうじゃなくて…

委員 いろいろ模索するのはアリかもしれないですけど、かなり、ちょっと難しい話かなあと。

委員 そういうことをやれ、って言うんじゃなくて生徒がどういうふうに考えるかっていう、そこだと思うんですけどね。

委員 さっきの16ページの最後学校運営協議会について、SSHの探究活動のどうのこうのっていうやつで、その関係で、今日ちょっと見て、いろいろ見て化学教室だとか、全部がどうなっているかなんてとてもわかんないんですが、あの、SSHの予算が年間にうん百万とかってあると思うんですよね。そういうやつを使い方が、どこらへんか、韮崎高校はどういうふうに、あるいは、SSHのあのJSTがある程度、これはこれくらいに、言われているやつに従ってやっているかどうか知らないんですが、ある程度大きい予算だから学校全体で考えて、例えば、今日僕が見る感じでは、まあ、化学の講義室とか実験室を見ていて、もうちょっとしゃれた、あの、分析の機械があってもいいのかなあなんてことを感じたんだけど、それは細かく見なきゃ見えないかもしれないんだけど、そういうやつを、SSHがずっと続いているんだったら、分析機器で、生徒が希望するようなもので、ちょっと金かかるようなものがあれば、面白いデータが出るっていうのであれば、そういうものを生徒の希望も含めるような感じでやったらいいと思うんですが、そういった予算の使い方とかは、SSHの担当の先生たちで判断するのだから。そこが僕よくわかんないんですが、そういうやつも上手くやることによって、研究成果が出るようになると思うんですけど、どうなんですかね。

校長 基本的には、JSTの方で予算配付してまして…。新しいものを買ってくれてっていうのは、担当者の方からこっちへ上がって来て、で、我々はそれに良し悪しはつけない。

委員 担当者っていうのは、韮崎高校の中の担当者ですか。

校長 生徒の中で、こういうことしたいから、こんなことしたいから、これを買ってください、っていうのがあれば、まあ、そのままハンコついているっていうような、執行しているっていうような状況です。

委員 せっかくですので、定時制の方も聞かなきゃならないと思ひまして…。2名の休学者がいるということで、これが問題になるのか、なんか、いろいろ、どういう状況なのかあって。私、全然わからないので、この2名の休学者っていうところに対する見解を教えてください。

定時制教頭 どちらも1年生になるんですけども、1年生の内一人は、本来ですともう3年生になっている子です。本校に入学しようと思って来たんですが、実は、中学生の時から対人恐怖で、学校の敷地内に入れなくて、うちにも来てみたんですが、玄関まで来るとしゃがみ込んで泣いちゃう、っていうような、そういう精神状態の子だというふうに聞いています。もう一人は、今年入学した子なんですけども、そもそも進路を考えたときに、定時制にするのか通信制にするのか、というのを迷ったまま本校を受検して、受かって、登校してみたものの、やっぱりなんか、ちょっと自分とは違うんじゃないかな、っていうことで、今、休学をしているっていうような、そういう状況です。

委員 よくわかりました。ありがとうございます。

委員 今、午前の部・午後の部、1組が午前で2組が午後みたいな形だと思いますけども、これはもう、ずっと固定になるんですか。

定時制教頭 はい。4年間ほぼ固定です。

委員 じゃ、入った段階で決まったら、卒業まではそのスタイルで行くと…

定時制教頭 はい。

委員 途中で希望は出ないんですか。

定時制教頭 本当に、保護者の方の都合でどうしても、という時だけは入れ替えて考えますけれども、ほぼ、一旦決まれば、そのまま、はい、行きます、4年間。生活のリズムがそれで出来上がりますので、そこをあえて崩すというようなこともしたくないので、学校側としては、変えずにそのままというスタンスでやっています。

委員 なるほど、わかりました。

委員 今の話に関連して、定時制は4年間ですよ。

定時制教頭 はい。

委員 それを、例えば、あの、本当に全然わからないからなんですが、上手く午前と午後でやっているのであれば、上手くやることによって、4年間を3年間で済むような、それは、もうとんでもない考えなんですか。

定時制教頭 いえ、その制度もありまして、本校の中で午前と午後を受けるというわけにはいかないんですが、中央高校の通信制を利用して、3年間で卒業するっていう生徒もおります。

委員 そういう生徒は、実際、蕪崎高校の定時制で結構いるんですかね。というのは、4年間で長いから途中であきらめるとかっていうような人がいる場合は、上手く3年間で修了できる、っていうことをするっていう選択の目があるってことで、生徒を少しでも教育の場に呼び込むっていうことをやったらどうかなあって感じたんですけども。

定時制教頭 はい。ありがとうございます。

委員 3年間で、上手く中央高校を使って、という先輩は、いるんですね。

定時制教頭 はい。います。

委員 そうですか。その、割合はどのくらいなんですか。

定時制教頭 その年によってやっぱり違うんですけども、今、3年生で3年間で卒業できそうな子が4名。

委員 そんなにいるんですか。

定時制教頭 はい。9人中4名が、はい。三修生って言うんですけども、三修生が4名おります。で、今の2年生は、あの、ちょっとやはり成績もよくないとなかなか厳しいので、学力的にも今の3年生よりもちょっと低めなので、今の2年生は一人だけ三修生として頑張っていて、で、本当に、一昨日1年生に向けての三修生の説明会をしたんですけども、3名くらい、どうしようかなあって言っている子が、今いるということなので、できるだけチャレンジできるように、声掛けしていきたいな、というふうに思っています。

委員 親の立場として、人生設計で、やっぱり定時制でって言っても、やっぱり3年制の方がいいんじゃないかって、高校4年間よりもって、そういうふうに思わないんですかね。どうなんだろう。

定時制教頭 はい…

議 長

時間の関係でちょっと失礼。申し訳ないです。

概況の方で、もし大体でよろしければ、今のは学校運営やなんかのことに足を踏み込んでいるものですから、そちらに切り替えをしたいと思うんですけれども。もしよろしければ、先ほど出てきた課題研究、探究活動に関するリソースの話っていうのはたぶん、ここに〇〇さんがおいでになるので、葦崎市役所としても、かなり中・長期計画を、ワークショップなどやったりして市民を巻き込んで、実は、課題を整理をしていて、なおかつ進捗管理までして、資源を活かしているんですよ。で、葦崎高校の子たちも関わっていると思いますが、ミアキスの子たちも、かなり自分たちでいろんなことをやったりするので、その辺は上手くやるとね、科学的な要素ではなく人文的な要素かもしれないけれども、結構はつきりしているものが、あるような気がするんですよ。で、私が、その文系の子たちの探究のテーマを見させてもらったら、少子化に対して、市毎の対応の違いみたいなことを整理したりする子たちもいたので、かなりその辺はね、ダブってるなあというふうに感じたんですけれども、〇〇さん、どうですか。

委 員

はい。これまでも、先ほど言ったように、探究とかがって葦崎高校の生徒が、葦崎市の方へお越しいただいたり話をさせていただいたりしています。また、こちらの方はこちらの方で、ふるさと納税の関係なんかも、ぜひ葦崎高校の方々のお力を借りて、絵を描いてもらったり写真を撮ってもらったりとかってということもしております。で、こちらの、笛吹高校のことも書いてございますが、いろいろな可能性はあると思っております。で、先ほど議長さんがおっしゃったとおり、我々も高校生をはじめ、子どもさんたちの意見を聞かなければいけないという、今、「子ども真ん中宣言」とかですね、そういったようなこともあってぜひ聞かせていただきたいという思いもありますので、こう、上手く連携が取ればな、と思います。で、市役所って窓口は広いので、先ほど先生がおっしゃったとおり、富士川砂防とも我々も付き合いがありますし、さらに、葦崎市役所に来て砂防の話聞いて、じゃあ本当のところへ行きたい、と言えば、我々の方からお口添えして行くということも可能ですし、間口だけは本当に広い分野が、環境からいろいろありますので、先ほどの人口減少も多々いろいろありますので、SSHの活動が、具体的にどこまで、何回、どういうふうに行っているかってところが、ちょっとわからないんですが、ぜひ意見交換というか、意見を聞かしていただきたいとも思っていますので、連携させていただければと思っております。そういった意味で、リソースになれるかどうかはちょっとあれなんですけれども、お手伝いもできますし、こちらにもメリットがあることだと思いますので、ぜひ、また、細かい協議をさせていただければな、と思っています。以上です。

校 長

先日、同窓会の折に、市長とちょっと話をして、筑波の新しい都市計画の話が出て、じゃあ、ちょっとそれ、うちの生徒も一枚かましてくれということで、PTA会長が担当しているという話ですので、ちょっと突っ込んで、えっと、11月の2日に発表会があるということですので、オンラインでやってくださるということですので、サッカーの兼ね合いがあるんですが、オブザーバーでSSH文系の人たちを聴講させてくださ

いって話で、進めさせていただいております。なかなか学校の方も、年間のスケジュールがある中で動いているものなので、新しいものをポンポン取り入れるというわけにはなかなかいかないんですが、それでも、手がかり足がかりを付けながら、やっていきたいというふうに考えております。

委員 子どもたちが選んだテーマによっては、たぶん、このエリアで頑張っている人たちって、十中八九蕪崎高校のOBなんですね。だから、本当にそういう意味では、誰かいないかって言えば、結構出てきそうな感じもしますんでね。そういうふうにしてもらうと非常にリアルなところの、今の課題とかね、そういうもの出るかなあ、なんてちょっと感じたところですけどもね。

ほかにはいかがでしょうかね。〇〇さん、どうですか。

委員 こういう今の状況の中でね、蕪高の生徒たちが、蕪崎の街なり環境みたいなものをね、知っていただいて、その蕪崎に興味を持っていただくということに関しては、非常にありがたいことですし、まあ、ぜひともね、やっていただきたいと思いますんで、どういう形で協力できるかわからないですけども、ある程度ね、じゃあこういった場合はどうする、と言われたときには意見が出せるような、そういったような協力はぜひもしていただきたいなあ、と思ってますんで、私は素晴らしいと思います。

委員 去年一度話したかもしれないけど、高校の部活動っていうのは、成績もたぶんあるんですけど、それ以外にも、例えば社会人体育というか、そういう人生におけるスポーツを楽しむとかスポーツを広げていくとかっていう、そういう役目もたぶんあると思うんですよ。以前筑波付属のバレー部の話をしたんですけども、以前育て方が、ゲームの、バレーボールとは何ぞや、という話からして、教え方も、何しろそういうことを全部、広く子どもたちに先生が伝えると。高校に入ってからバレーをやった子たちが、それこそ1年生の夏休み明けくらいには、出身中学校へ戻って行って、その子はバレーやってなかったんだけど、中学生にバレーボールを教えられるっていうんですよ。だから、そういう意味で余計なこと教えているから、ベスト4いけるのがベスト8だったとかってことはあるらしいんですけども、そういう意味では、その子たちは成績だけではなくてね、広く社会に出てからも、そういうものを楽しむとか味わうとかね、そういうかかわりができるっていう意味で言うと、1つの高校の部活動の在り方として、そういうのアリじゃないかなと、特に名門と言われるところはね、ものすごく大勢の子たちが来るんで、その中でも自分の進むべき方向というか、選ぶべき部活生活とかね、そういうのが違ってても良いのかって気がちょっとするんですよ。

それから、もう一つは、先ほど話にありましたけど、少子化の関係で定員が減らされて、子どもたちが減っていく中で、唯一通信制高校だけが希望者が増えている。これはやっぱりね、時代が通信制高校を求めている。通信制高校と言っても、通信課程、要するにレポートとスクーリングだけではない学びの仕方をいっぱい、私学やなんか工夫していて、で、蕪高の定時制にも来ていると思うんですけど、不登校経験のある子たちが、やっぱりそこでもってやり直しをするとかね、学び直しをする、伸びていける、

本当に頑張ってね、社会に出てきてやってくれる連中っていっぱいいるんですよ。そういう意味で、公立、特に定時制に関して言うと、昔の定時制っていうのは、本当に勤労学生というかね、昼間働いて夜だけ勉強するっていう認識でしたけど、今はそういう様子じゃないので、そうすると、公立学校として施設があって、予算が組んであって、先生たちが大勢いる中で、例えば、学年10人しかいないよというのは、定員よりも少ないんですね。蕪高の場合もね。今、定時制みんな少ないですよ。昼間。中央の昼間くらいですか、少し人気があるというか、たぶんそんな感じだと思いますけど、そういう意味では、これ、単に蕪高だけで判断できることじゃないと思いますけども、もう一度ね。定時制というものの捉え方を、捉え直しをするとか、ある意味単位制というふうに捉えれば、修業年限は4年でも3年でもいいんですけどね、いろんな取り方ができるし、いろんな学び方ができるなと思いますし、あれだけ人数が少ないと、一斉授業じゃなくてできるじゃないですかね。個別に自分のペースで勉強できる。そのサポートができるような規模だと思いますから、そうすると、もう、ほんとうにその、小学校中学校でいろいろ工夫をして、かがやき教室なんてものもありますけれど、すごく一生懸命面倒見てくれていますけれども、そういうところの子たちも、定時制を実はターゲットにしている子たちもいるんですよ。話を聞いたらね、半分くらいは落ちるって言ってましたけどもね。いろんなことがあって、落ちるって言ってましたけど、ある程度のレベルの子を取りたいというのは、当然、各高校の思いとしてあるけれども、来た子たちが、どのくらいそこから伸びるかっていうのも、すごく学校の役割としてあるような気がするんですよ。そういう意味で、もう一度、定時制自体の、意味づけとか、社会の中のニーズを捉え直しをして、それで私学の通信制って、やっぱりお金がかかるんですよ。フルタイムで行っている子たちもいますからね。そういうことを考えると、やっぱり公立で受け入れるというのは、とても経済的には助かる話ですから、ぜひその見直しとか、先生たちも勉強しなきゃいけないと思いますけど、どうケアしたらいいのかっていうね。そんなふうにギアチェンジしていただくタイミングじゃないかな、ということ考えたところですけども。

委員 いいですか。ギアチェンジだ、見直しだと今言われて、これ難しい話だと思うんですが、蕪崎高校の定時制も含めた、魅力を少しずつ変えていくっていうんで、難しいと思うんですが、文理科というのが、今、ありますよね。あれを理数科っていうふうに変えるっていうことは難しいかもしれないんですが、どうかなあ、っていうことをOBとしてずっと考えてるんですが、それは、もう、論外ですかね。10何年くらい前に、都留高校のSSHの運営委員を昔やっていたんですが、吉田高校は理数科がありますよね。で、大月あたりから成績の良い生徒が富士吉田に行っちゃうっていう話があって、文理科を蕪崎高校理数科になんていうことを、難しい話で簡単にはいかないと思うんですが、どんなもんなんですか。

校長 難しい議論になると思います。文理科っていうのは、文科省的には理数科なんですよ。全国的に文理科っていうのはなくて、理数科の亜系という形で入っています。や

っぱり、生徒数が少ないので、30名の形で、理系30名で取り切れるのかどうか。どうしても下の方になってくると重くなっちゃう。それだったら、文系の子たちも入れて、意図って言うことばが難しいですけど、習熟度の高い子どもたちでクラスを作った方が良くはないか、そういう判断が開設当初にはあったようです。

全日制教頭 あともう一点。人数的には少ないんですけど、文理科って他県にあまりないんです。他県から本校を受検するのにあたって、えーっと、条件がいくつかあるんですけども、その条件の一つに「その県にはない学科がある場合（には、受けてもいい）」というのがありまして、普通は、転居ですね、そういうことがないと他県から本校を受けるってことは、なかなかできないんですけど、文理科は、例えば、長野県にはないので、長野県の生徒がうちの学校に来たい、まあ、サッカー部とかそういうふうなところを狙っている子たちなんですけれど、そうすると文理科へ志願して、それで入ってくる、ということが可能というふうなことがあります。今、全国募集枠っていうのもできたので、県外に対してやや門戸が開かれつつあるんですが、そういうふうな事情もあります。それが理数科となると、その条件はあてはまらないということがあります。

議 長           じゃあ、ちょっと時間がかなりオーバーしてしまったんですけども、一応質疑・意見交換に関しては、以上で終わりにしたいと思います。

6. 第3回学校運営協議会の日程について

今のところ変更なし。

7. その他

8. おわりのことば